

大正から昭和にかけて発行された月刊誌「キャンプ」について — Outdoor Sports Magazine The CAMPING by Japan Camp Club —

西野 仁 (東海大学)

はじめに

大正末期から昭和のはじめにかけて、キャンプや登山、ハイキング、旅など、非日常でのレジャー・レクリエーションへの関心が高まってきた。当時、キャンプは、キャンプや幕営生活などとさまざまに表記され、目新しい活動であった。

今から、32年前、東京神田の古書店で、Japan Camp Club 発行の The Camping キャンピング (第56号から第82号) を偶然に見つけ購入した。それに関する情報を探ってはいたが、それ以前の号も、それ以後の号も手に入れることはできなかった。しかし、その後、体裁や名称を変えながら発行が続いていたようで、100号頃からは、「山と旅」という100ページを超える月刊誌へと変貌したようである。

本報告は、手許にある The Camping の第56号 (大正15年(1926)12月1日発行) から第82号を (昭和4年(1929)5月1日発行) を中心に、さらに、「山と旅」101号を加え、どのような内容の雑誌であったかについて報告するものである。

The Camping キャンピングの概要

ページ数 18ページ程度 (号によって多少の変動あり)

編集者 金子佐一郎 発行兼印刷者 村瀬正治

発行所 東京・丸ビル ジャパン・キャンプ・クラブ

毎月1回1日発行

定価 一部 5銭 (送料別) 年間 60銭 (送料別)

発行部数 一万部 (発行所の報告)

The Camping キャンピングの体裁



第56号目次

表紙写真 ワンダーフォーゲル	1
ワンダーフォーゲル 禮讀者の言葉	3
山と浮世絵	4
天幕物語 (其三)	5
キャンパーの必携薬について	6
月下秘話	6
Sweet Camping	6
伝説ところどころ (2)	7
アラベスク	8
臆病者のキャンプ	9
細かい注意	9
Message	10
寄書紹介	10
編輯後期	10

広告	タイガーテラー (丸ビル内)	表紙裏
	文房堂	記事 中 1/6
	東亜シート株式会社 (丸ビル内)	記事 中 1/6
	松屋呉服店	記事 中 1/6
	泰昌製菓	記事 中 1/6
	資生堂	裏表紙裏
	丸菱呉服店	裏表紙

昭和2年(1927年)一年間の主な内容

第57号(1月)ウインタースポーツ号

自然科学者としてのスキーヤー、冬の登山、スキーの話、スキー靴について、レルヒ少佐と高田、映画に現れたスキー、組み立てストーブの作り方、全国スキー地しるべ

第58号(2月号)

スポーツマンとしての秩父宮殿下をお迎えして、大小のキャンプ、不健康者よ先ず我幕舎に来れ、キャンプの裂目応急修理法、簡単な天幕料理二三、成城学園スキー部諸君に寄す

第59号(3月号)

登山と趣味、ウインターキャンパーのノートより、自然のために、続トーテムポール物語、スキー靴私見、

第60号(4月特輯号：地図の研究号)

地図の必要、我国の地図と其測量、陸測地図の求め方と読み方、地図の先駆は、陸地測量部発行の地図について、三角点標石の傍で、地図研究私見、地理学者としての伊能忠敬の事跡、杭打ちの山岳家へ、地図に関して

第61号(5月号)

巻頭言、ハイキング欄、オートキャンプの話、上高地キャンプの想出、ピクニックの流行に就いて、烏水氏小話、関西の天幕村訪問記

第62号(6月号：登山・天幕生活と其用品号)

用品研究：登山とキャンプ用の天幕、用具の話：天幕生活と山の用品、カヌー研究者へのプロローグ：カンバス・カヌーの生まれるまで、馴鹿(トナカイ)の皮で作った天幕

第63号(7月号：夏季特別増大号)

初めて登山する人の為に、初めてキャンプを志す人々へ、キャンプの父 ネスミックという男、研究資料：ハイキングの理想的な歩き方、山の印象：武尊山を仰ぎて

第64号(8月号)

キャンプ余話、初夏の立山の追想、伊豆大島のキャンプサイト、幕営の心得二三、簡単に出来る滑走艇の作り方、島のキャンプ、中国地方のキャンプサイト 三瓶山

第65号(9月号)

オートキャンプの轍(わだち)を辿りて、日本のカールスパッド：雲仙岳を讃ふ、らうんど・ぜ・ふあいあ、キャンプ膝栗毛(一)

第66号(10月号：キャンプアート研究号)

天然に対する心得、伝説のトーテム・ポール、キャンプ芸術：トーテムポールの造り方、懐かしい思い出を刻むキャンプアートの二三、十和田湖紀行、キャンプ膝栗毛(二)

第67号(11月・12月合併号)

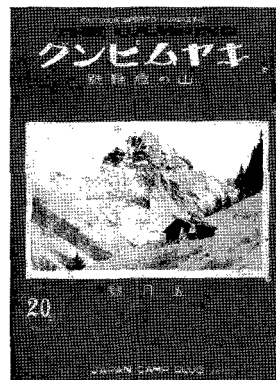
国立公園設置運動とキャンプの遵守すべき規定の取締方法、手斧投げの秘訣、初めて釣道に志す人々に、樺太紀行、あめりか土産、サイド・アームの話、キャンプ膝栗毛（三）

Japan Camp Club 発行の月刊誌の変遷

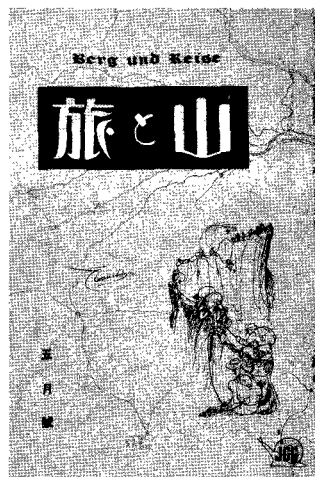
第 68 号（昭和三年 1 月号）から、表紙に OutdoorSports Magazine 表紙にという言葉が追加された



第 79 号（昭和四年二月号）から、それまでの菊倍大版から四六倍大版へと版が変わり、第 80 号から本文は、34 ページに増頁され、値段は 20 銭になった。第 81 号（昭和四年四月号）は、裸体運動研究号とし、ハンス・ズーレンの裸体運動を取り上げた。また、第 82 号（昭和四年五月号）は山の危難号とし、山の危難座談会を行っている。



そして、少なくとも第 100 号（昭和 11 年 5 月）からは月刊誌「山と旅」が発刊された。



時代背景と関連書籍の発行

キャンプが発刊された大正末期から昭和初期は、関東大震災からの復興の時であり、また、人々が都会の喧騒を離れ、自然へと目を向け出した時でもある。

大正15年5月には、鉄道省編 日本旅行文化協会と実業之日本社発行の「キャンプの仕方と其場所」が発刊され、同年7月までに第5版を増刷した。

『キャンプは人間が森林のうらでヤマユリを採ったり、蜂蜜を集めたり、ミソサザイを友としたり、カモンカを侶としたりして自由に生活していた時代への憧憬の発露なであります。』（キャンプの仕方と其場所 p.1）



昭和3年7月には、東京鉄道局運輸課長 茂木慎雄著の「キャンプ」が、アルス運動叢書の一冊として、硬球（テニス）、軟球（軟式テニス）、五種十種競技、投擲、ホッケー、ア式蹴球、野球などとともに、発行された。

『人生の開拓者である青年達よ。なんじのテントを携えて野に出でよ。山に登れよ。

水のほとりに赴けよ。』（キャンプ p.2）

昭和4年7月「旅（第6巻7月号）」は「キャンプ号」の特集を組んだ。伯爵二荒芳徳の「キャンプ生活」、鉄道省運輸局旅客課 河上壽雄（としお）「山のキャンプ」についてなどが掲載された。他に全国キャンプ地細別などの情報も掲載された。この特集では、「キャンプ」と「キャン」の両方の用語が見られる。

さらに、昭和10年5月には、茂木慎雄著「ハイキング」が三省堂から発刊された。このように、いわゆる野外活動の書籍が相次いで発行された時代であった。



参考文献

- 鉄道省編 キャンプの仕方と其場所（1925年） 実業之日本社・日本旅行文化協会
 Japan Camp Club キャンプ 第56号～第82号（1926年～1929年）
 茂木慎雄 キャンプ（1928年）アルス
 日本旅行協会 旅（1929年）第6巻第7号
 Japan Camp Club 山と旅 第101号（1931年）
 茂木慎雄 ハイキング（1935年）三省堂